

■企画展

美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅰ

芸術と自然ー若林奮・大久保英治・山口啓介ー

美濃加茂自然環境会議2000

(1) 趣旨

自然は、人間のために存在するものではありません。今日における自然環境問題は、産業革命以後の近代人の自然観、すなわち人と自然のかかわり方や自然の見方が現実社会に反映したものです。人間中心的な価値観を見直さなくてはならない時期に、私たちは生きています。

芸術家はよく時代の予言者だといわれ、炭鉱におけるカナリヤに例えられます。危険が迫ると、いち早く警告してくれる彼らは、本能的に自然環境の危機に敏感です。無意識に時代の空気を察知する彼らは、その作品や行為に自然環境の危機が叫ばれているものも多く見受けられます。

芸術と自然について、また自然観や環境問題について語り合える「場」として本展は、芸術作品を鑑賞すると同時に、対談・ワークショップなどを通じて、人々に「人と自然と芸術」を考える「場」を提供できればと考え企画した展覧会です。

(2) 会期 2000年10月1日(日)～10月29日(日)

開催日数 25日間

(3) 観覧料 無料

(4) 会場 企画展示室、文化の森内

(5) 主催 美濃加茂市民ミュージアム、「清流と彫刻の街」実行委員会

(6) 後援 美濃加茂市文化団体連盟

(7) 企画協力 加藤義夫芸術計画室

(8) 作品点数 17点

(9) 関連事業

①対談「自然を考える」

(10月21日14:00～16:00／会場：緑のホール／入場料500円)

講師：河合雅雄氏(兵庫県立人と自然の博物館館長)、若林奮氏(彫刻家)

②山口啓介ワークショップ

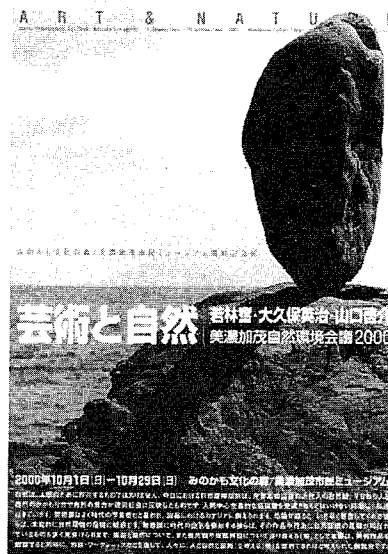
(10月14、15日／エントランスホール／

参加料 無料)

講師：山口啓介氏(美術家)

(10) 図録 『芸術と自然 美濃加茂自然環境会議2000』

B5変型判 88頁



「村絵図と日本図ー古地図から景観が今、よみがえるー」

(1) 趣旨

絵図とは、「絵画的手法によって地物を表現した地図」のことであり、「作成技術の未発達を補うべく、鳥瞰図法などによって絵画的に表現した地図のこと」でもあります(川村博忠『近世絵図と測量術』古今書院、1992年)。こうした絵図は、多様な目的のために江戸時代には各地で製作されました。本展では、西脇村絵図(天保年間)・伊深羽生村水論裁定図(天明年間)などの市内現存の村絵図を出発点に、近世に製作された絵図を紹介しました。そして、日本図や世界図などのさまざまな絵図の種類や測量器具をも展示することで、村絵図の製作意図や近世絵図に見る人々の世界観の広がりにも言及することができました。

なお、期間内に行われたワークショップの反響により、翌年同時期に市内蜂屋小学校において同種のワークショップが実施されるなど、企画展の波及効果が地域にも及んだことは意義深いと思われます。



(2) 会期 2000年11月8日(水)～11月19日(日)

開催日数 11日間

(3) 観覧料 一般 300円(250円)、小中学生 150円(100円)

() は 20名以上団体料金

(4) 会場 企画展示室

(5) 展示点数 31点

(6) 関連事業

①ワークショップ

(11月18日午後13:30-15:00／市内／参加料無料)

当館学芸員 井戸幸一

村絵図のコピーを片手に現地を歩き、かつての景観の追体験を試みました。

②講演会「江戸時代における地域観」

(11月19日／研修室／入場無料)

講師：溝口常俊氏(名古屋大学教授)

豊富な図版により、歴史地理学からの絵図利用法を紹介しました。

(7) 図録 『村絵図と日本図』 A4判 6頁

